

2016（平成28）年度

# 事業報告書

自 2016（平成28）年4月 1日より

至 2017（平成29）年3月31日まで

学校法人 九州ルーテル学院

# 目 次

<b>I 学校法人の概要</b> .....	1	ページ
<b>1 建学の精神</b> .....	1	ページ
<b>2 学院の沿革</b> .....	1	ページ
<b>3 設置する学校・学部・学科等</b> .....	2	ページ
<b>4 学生・生徒・園児の状況</b> .....	3	ページ
<b>5 役員の概要</b> .....	4	ページ
<b>6 評議員の概要</b> .....	5	ページ
<b>7 教職員の概要</b> .....	6	ページ
<b>8 組織図</b> .....	7	ページ
<b>II 事業の概要</b>		
<b>1 大学・大学院・大学付属黒髪乳児保育園</b> .....	8	ページ
(1) 熊本地震関連		
(2) 入学および卒業		
(3) 入試結果		
(4) 就職状況		
(5) 障がい学生サポート		
(6) 異文化圏体験学修・留学		
(7) こどもフェスティバル		
(8) カウンセリングルームジャニス		
(9) 地域連携		
(10) 次年度に向けて（組織再編）		
(11) 大学付属黒髪乳児保育園		
<b>2 中学・高校</b> .....	11	ページ
(1) 「創立90周年記念事業」		
(2) 「平成28年熊本地震」復旧・復興及び教育環境の整備		
(3) 教学内容＜中学校＞		
(4) 教学内容＜高校＞		
(5) 教学内容＜中学・高校共通＞		
(6) 企画事業		
<b>3 こども園</b> .....	15	ページ
(1) 園児の動向		
(2) 活動報告		
(3) 今後の課題		
<b>4 法人・事務部門</b> .....	16	ページ
(1) 基本的な取り組み方針		
(2) 熊本地震への対応について		
(3) 強い職員集団づくり		
(4) 組織の連携・強化		
(5) キリスト教精神の浸透、キリスト教学校教育同盟との連携		

(6)	健全な財務基盤の確立		
(7)	人事・労務関係		
(8)	防災を含むリスク管理対策		
(9)	広報		
(10)	施設・環境整備		
(11)	同窓会との連携		
(12)	阿蘇山荘について		
<b>5</b>	宗教教育	19	ページ
(1)	学院の宗教活動		
(2)	大学における宗教活動		
(3)	中学・高校における宗教活動		
(4)	こども園における宗教活動		
<b>6</b>	入試結果・入園入学状況	20	ページ
<b>7</b>	卒業生数及び進学・就職状況	22	ページ
(1)	2016年度卒業・卒園数		
(2)	2016年度卒業生の進学・就職の状況		
①	中学校		
②	高等学校		
③	大学		
<b>8</b>	施設等の状況	24	ページ
(1)	学院等が所有する校地・校舎		
(2)	2016年度に実施した工事		
<b>9</b>	年間行事	25	ページ
<b>Ⅲ 財務の概要</b>			
<b>1</b>	決算の概要	27	ページ
(1)	貸借対照表の概要	27	ページ
(2)	資金収支計算書の概要	28	ページ
(3)	事業活動収支計算書の概要	29	ページ
(4)	収支の機関別内訳	31	ページ
(5)	収支の大科目別内訳	31	ページ
(6)	機関別収支の内訳	32	ページ
(7)	主な財務比率	34	ページ
<b>2</b>	その他	36	ページ
(1)	有価証券の状況		
(2)	借入金の状況		
(3)	学校債の状況		
(4)	その他		
①	寄付金の状況		
②	収益事業の状況		
③	関連当事者との取引		
<b>Ⅳ</b>	付録 学校会計について	37	ページ

## I 学校法人の概要

### 1 建学の精神

学院標語（学訓） **感 恩 奉 仕**

学院聖句 わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。  
(ヨハネによる福音書 10 章 10 節 b)



本学院の校章は、中心部は図案化されたバラの花が置かれ、バラを囲む三角で縁取りされている。三角の型は、キリスト教会には馴染み深いシンボル・三位一体の神に由来するものだが、学院では学校の間育成・教育の課題である「知育・徳育・体育」を表すものとして扱ってきた。中心部におかれたバラ模様はルター派（ルーテル）教会のシンボルである。「純粹」を表す白いバラ模様の中心には、ルター（ルーテル）紋章では赤いハートに十字架を刻み、キリストの十字架の心が記されているが、学院紋章では「赤い丸」に単純化されている。それは単純化と云うよりは「キリストの十字架の血」に置きかえられたものである。その「一点」こそが、学院の原点であり、それは「靈育」という原点である。「靈育」を原点とし、そこに支えられて「知育・徳育・体育」による人間形成が営まれる学府を「校章」は謳っている。そこから生まれる人間が「神の恩寵（恵）に感謝し、神と人に仕える」「感恩奉仕」に生きること目標を置くところに学院の使命と伝統がある。

### 2 学院の沿革

- |       |       |   |
|-------|-------|---|
| 1908年 |       | 米国ペンシルベニア州のインマヌエル・ルーテル教会で、「日本に女子学校を作るために」5ドルが献金された。   |
| 1921年 | 9月    | 北米一致ルーテル教会婦人伝道局総会で、日本に女子学校建設を決議。  |
| 1922年 |       | 日本の福音ルーテル教会第3回総会で、女子学校設立を決議。  |
| 1923年 | 1月    | 米国婦人伝道局が17万5千ドルを目標に募金運動開始。<br>2年間で延べ30万人から25万6182ドルを募金。<br>特に、オハイオ州のジェームズ夫妻は、日本への宣教師を夢みて8歳で夭折した娘ジャニスのために特別多額を寄付。<br>新しくできる学校は、「Janice James School」と呼ばれることになった。 |
| 1925年 | 12月   | 私立学校認可申請を熊本県知事に提出、翌年2月認可。   |
| 1926年 | 4月    | 九州女学院開校。初代院長マーサ・B・エカード  |
| 1928年 | 10月3日 | 専門学校入学者検定規定による文部大臣指定（この日が創立記念日）   |
| 1931年 | 2月    | 修業年限5箇年指定（高等女学校高等科入学資格）   |
| 1931年 | 3月    | 第1回卒業式  |
| 1941年 | 11月   | 九州女学院財団法人設立 校名は九州女学院高等女学校となる  |
| 1943年 | 4月    | 四年制高等女学校となり校名を清水高等女学校と変更  |
| 1946年 | 3月    | 同窓会「のいばら会」発足  |

1946年	4月	五年制高等女学校へ復帰 校名は九州女学院高等女学校となる
1947年	4月	九州女学院中学校（新制）を設置
1948年	4月	九州女学院高等学校（新制）及び九州女学院幼稚園を設置
1975年	1月	短期大学設立認可
1975年	4月	九州女学院短期大学[英語学科、児童教育学科]開学
1996年	12月	大学設立認可
1997年	4月	九州ルーテル学院大学[人文学部人文学科]開学 三鷹のルーテル学院と区別するために九州ルーテル学院の校名とした
1998年	3月	短期大学閉学
2001年	3月	野々島グラウンド落成
2001年	4月	中学・高等学校を男女共学とし、ルーテル学院中学・高等学校と校名を変更。法人名を、九州女学院から九州ルーテル学院に改名。さらに幼稚園をルーテル学院幼稚園に園名変更
2001年	7月	中学高校男子寮竣工
2002年	10月	大学4号館竣工
2002年	7月	菊南グラウンド落成
2004年	4月	大学に [心理臨床学科]開設
2005年	3月	学生自治会・部室棟（学生ホール）竣工
2006年	4月	大学に大学院（修士課程）人文学研究科障害心理学専攻開設
2007年	4月	大学人文学部人文学科にキャリア・イングリッシュ専攻とこども専攻を開設
2009年	4月	大学が大学基準協会認証評価適合
2010年	4月	大学に小学校教諭一種免許状の課程開設
2013年	4月	認可外保育施設ルーテル学院幼児園開設
2014年	7月	こころとそだちの臨床研究所 開設
2015年	3月	認可外保育施設ルーテル学院幼児園廃止
2015年	4月	ルーテル学院幼稚園を幼保連携型認定こども園ルーテル学院幼稚園へ移行
2016年	4月	九州ルーテル学院大学附属黒髪乳児保育園開園

### 3 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
九州ルーテル学院大学	1997年4月	人文学部人文学科
	2004年4月	人文学部心理臨床学科
九州ルーテル学院大学・大学院	2006年4月	人文学研究科障害心理学専攻
ルーテル学院高等学校	1926年4月	
ルーテル学院中学校	1947年4月	
認定こども園ルーテル学院幼稚園	1948年4月	
九州ルーテル学院大学附属黒髪乳児保育園	2016年4月	

## 4 学生・生徒・園児の状況

### ①在籍者数

2016年5月1日現在

単位:人

学 校	学 年	学科	定員数	クラス数	園児・生徒・学生数		
					学科別計	合 計	
こども園	0歳児					1	
	1歳児		30	2		12	
	2歳児					15	
	3歳児		50	2		42	
	4歳児		50	2		50	
	5歳児		50	2		44	
	計		180			161	
中学校	1年		80	2		49	
	2年		80	2		67	
	3年		80	2		72	
	計		240	6		188	
高等学校	1年		320	9		357	
	2年		320	8		321	
	3年		320	10		372	
	計		960	27		1,050	
大 学	1年	人文	保育	30	2	30	166
			児童教育	10	1	15	
			キャリア	35	2	42	
		心理臨床	75	4	79		
	2年	人文	保育	30	2	31	178
			児童教育	10	1	13	
			キャリア	35	2	38	
		心理臨床	75	4	96		
	3年	人文	保育	30	2	30	156
			児童教育	10	1	13	
			キャリア	35	2	38	
		心理臨床	75	4	75		
	4年	人文	保育	30	2	34	204
			児童教育	10	1	22	
キャリア			35	2	45		
心理臨床		75	4	103			
長期履修学生	人文	5	-	-	11		
	心理臨床	5	-	11			
計			600	35	715	715	
	科目等履修生、研究生		-	-	5	5	
大学院	1年	障害心理学専攻	5	-	6	16	
	2年	障害心理学専攻	5	-	6		
	計		10		12		
	研究生、科目等履修生		-	-	4		
付属黒髪乳児園	0歳児					4	
	1歳児					12	
	2歳児					9	
	3歳児					9	
	計					28	

## 5 役員概要

2016年5月1日現在

職名又は 担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・ 非常勤 の別	就任年月日	備 考
理事長	坂根 信義	非常勤	2002年 6月24日	理事長
理事	内村 公春	非常勤	2016年 4月 1日	社会福祉法人慈愛園理事長
理事	広渡 純子	常勤	2016年 4月 1日	学長
理事	林田 博文	常勤	2012年 4月 1日	中学高校長
理事	尾田 明子	常勤	1998年10月20日	こども園長
理事	百家 裕幸	常勤	2016年 4月 1日	事務局長
理事	潮谷 愛一	非常勤	2014年 5月28日	熊本市社会福祉協議会会長
理事	山口 初子	非常勤	2007年 9月28日	元熊本ライトハウスのぞみホーム施設長
理事	於保 郁子	非常勤	2004年10月 1日	元めぐみ幼稚園長
理事	長岡 立一郎	非常勤	1998年10月20日	九州学院理事長
理事	谷口 美樹	非常勤	2014年10月 1日	のいばら会会長
理事	福田 邦子	非常勤	2004年10月 1日	のいばら会顧問 愛育会福田病院理事
理事	市川 一宏	非常勤	2004年10月 1日	ルーテル学院大学教授
理事	石原 靖也	非常勤	2006年 4月 1日	アジアフロンティア(株) 代表取締役
理事	米澤 房朝	非常勤	2001年 5月30日	(株)ヨネザワ社長・ 清水学園理事長
監事	河崎 隆夫	非常勤	2008年10月 1日	元日本福音ルーテル教会 九州教区主事
監事	寺本 行義	非常勤	2008年10月 1日	元リデル、ライト両女史 記念館館長□

## 6 評議員の概要

2016年5月1日現在

氏名	就任年月日	備考
坂根 信義	2002年 6月24日	理事長
内村 公春	2002年 5月29日	慈愛園理事長
山口 初子	2007年 9月28日	元熊本ライトハウス・のぞみホーム施設長
長岡 立一郎	1998年10月20日	九州学院理事長
於保 郁子	2004年10月 1日	元めぐみ幼稚園長
潮谷 愛一	2014年 5月28日	熊本市社会福祉協議会会長
広渡 純子	2016年 4月 1日	大学長
林田 博文	2012年 4月 1日	中学高校長
尾田 明子	1998年10月20日	こども園長
百家 裕幸	2016年 4月 1日	事務局長
大久保 優子	2016年 4月 1日	保育園長
豊田 憲一郎	2014年10月 1日	大学教授
志水 龍星	2000年 5月29日	大学事務長
西山 慎一郎	2014年10月 1日	中学高校教諭
濱崎 庸一	2014年10月 1日	中学高校教諭
和田 成子	2001年 1月17日	こども園教諭
福田 邦子	2004年10月 1日	のいばら会顧問・愛育会福田病院理事
齋藤 禎子	2012年10月 1日	元のいばら会会長
谷口 美樹	2014年10月 1日	のいばら会会長
九谷 晶子	2013年12月11日	結会会長
宮川 由香理	2013年12月11日	結会役員
鬼塚 素子	2015年 6月 1日	大学保護者
森永 博臣	2015年 6月 1日	中学高校 PTA 会長
大庭 早苗	2015年 6月 1日	こども園 PTA 会長
石原 靖也	2006年 4月 1日	アジアフロンティア(株)代表取締役
米澤 房朝	2001年 5月30日	ヨネザワ社長・清水学園理事長
市川 一宏	2004年10月 1日	ルーテル学院大学教授
角本 浩	2016年 4月 1日	日本福音ルーテル神水教会牧師
松尾 正一	2016年 3月22日	熊本日新聞社編集委員
梅元 昭宏	2004年 9月28日	梅元税理士事務所長
俵 恭子	2005年 2月 1日	元大学非常勤講師



## 7 教職員の概要

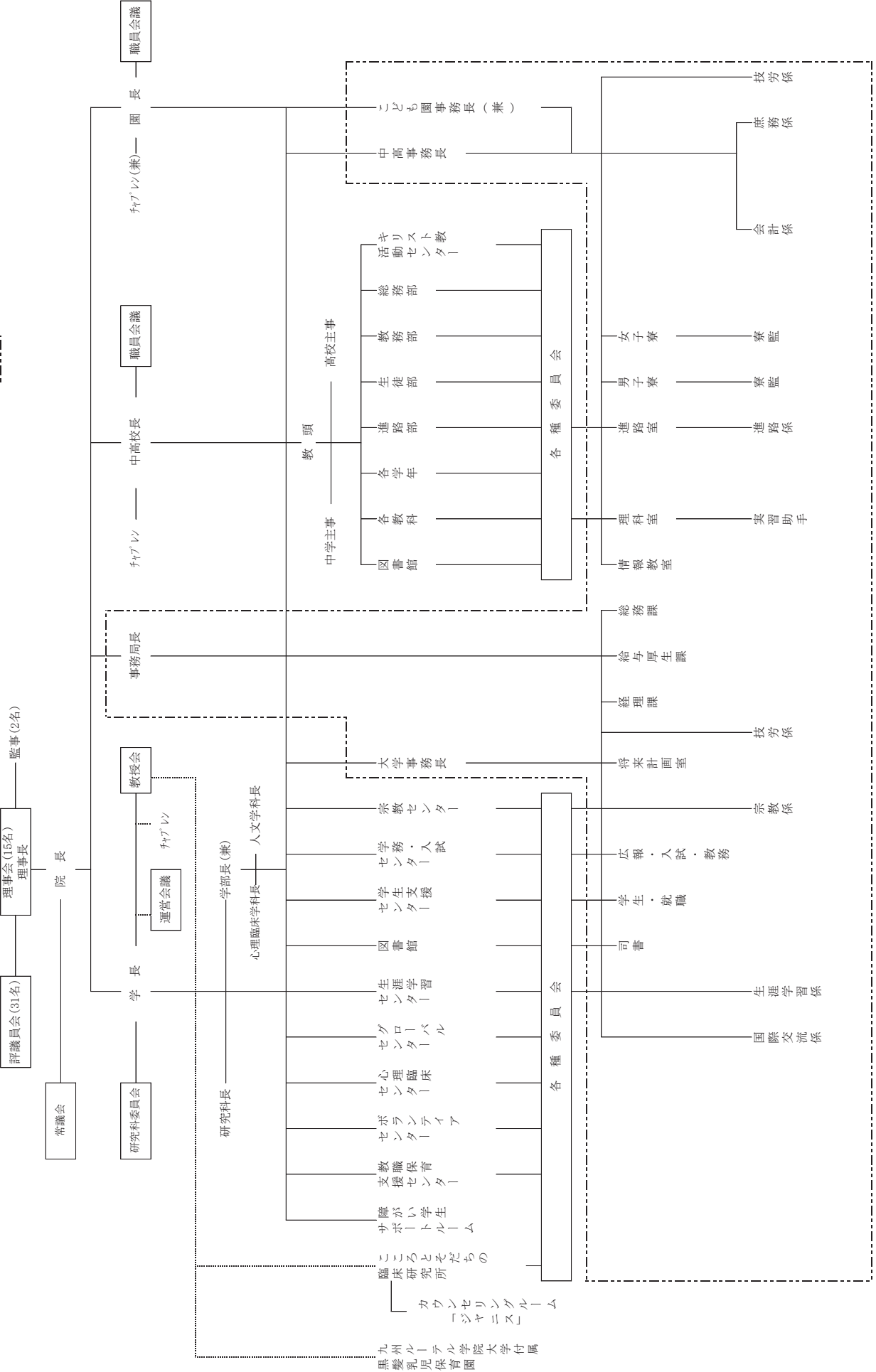
### 教職員組織<院長 内村 公春>

2016(平成28)年5月1日現在

区分	教員区分	人数	職員区分	人数
認定こども園 <園長 尾田 明子>	専任	8	専任	1
	臨採	2	嘱託	1
	非常勤	11	非常勤	7
	計	21	計	9
	教職員合計			30
中学校 <校長 林田 博文>	専任	10	専任	1
	臨採	2	嘱託	2
	非常勤	5	非常勤	5
	計	17	計	8
	教職員合計			25
高等学校 <校長 林田 博文>	専任	50	専任	5
	専任(J3)	2		
	臨採	8	臨時雇員	5
	非常勤	25	非常勤	6
			寮監	6
	計	85	計	22
	教職員合計			107
大学 <学長 広渡 純子>	専任	38	専任	17
	兼任	73	嘱託	-
			非常勤	15
	計	111	計	32
	教職員合計			143
大学院 <研究科長 一門 恵子>	兼任講師	5		
	兼担	10		
	計	15		
保育園 <園長 大久保 優子>	専任	4	専任	1
	臨採	2		
	非常勤	4	非常勤	3
	計	10	計	4
	教職員合計			14
学院総務部 <事務局長 百家 裕幸>			専任	8
			嘱託	1
			非常勤	2
			計	11

2016年度 学校法人 九州ルーテル学院 組織図 (2016.5.1現在)

事務組織



## II. 事業の概要

### 1 大学・大学院・大学付属黒髪乳児保育園

#### (1) 熊本地震関連

4月14日の地震発生により約1か月間休講。学生・教職員の安否確認、被災状況調査を行い、被災学生への支援（授業料減免、メンタルヘルスケアなど）を実施した。5月13日に授業を再開し、学年暦を変更して授業日数を確保。前期に予定していた教育実習は実習先と日程を調整し後期に実施することができた。また休講中も就職活動支援や教員採用試験対策等に対応。校舎等の被害については立ち入り禁止となっていた体育館と1号館別館が8月末に復旧。菊南グラウンドは未だ地盤調査中である。また地震直後より学院が近隣住民の避難所となり、学生たちが支援物資の受け入れや運搬、食事の世話などでボランティアとして活躍した。学外（益城町、西原村等）でも多くの学生が救援活動を行い、感謝状をいただいた。

#### (2) 入学および卒業（人）

	学部生	長期履修生	大学院生
【入学者数】	167（編入生1を含む）	1	6
【卒業者数】	188（留学生1）	4	6

#### (3) 入試結果

【大 学】志願者数計410名で前年度（511名）より大幅減。推薦入試は微増、一般入試で減少。2017年度入学者は185名（前年度166名）

【大 学 院】志願者数計8名。2017年度入学者は6名  
（内社会人特別選抜5名、一般選抜1名）（前年度6名）

#### (4) 就職状況 震災の影響を懸念したが大きな影響は特になし。

・就職率96.5%（5月2日現在）（前年度5月12日99.4%）

希望者	決定者	希望者	決定率
幼保希望者	39	39	100%
医療・福祉・施設希望者	14	14	100%
教員希望者	27	28	96.4%
企業希望者	73	77	94.8%

\*精神保健福祉士資格（PSW）取得希望者（新卒）11名中8名が合格で72.7%（前年度72.7%）合格者全員が病院等に就職決定。

#### (5) 障がい学生サポート 配慮が必要な学生5名。

4月に1名（聴覚・言語）が心理臨床学科に入学。1名（両下肢、言語・視覚等）が3月に卒業し、本学大学院に進学。1名（両下肢、聴覚・視覚等）が教員免許取得希望の

ため次年度教育実習の予定。コミュニケーション（卓上型対話支援システム）の導入によりサポートを充実。今後は発達支援の充実も検討。

## (6) 異文化圏体験学修・留学

震災の影響はなく例年通り実施することができた。

【異文化圏体験学修（夏）】7名（男3、女4）（前年度9名）

場 所	日 程
インドク大学（韓国）	8月26日～9月23日
グリーンワールド・ギルド（アメリカ）	8月22日～9月19日
バートンアンドサウスダービシャーカレッジ（イギリス）	8月20日～9月17日

【海外留学B】2名（男1、女1）（前年度2名）

場 所	日 程
バートンアンドサウスダービシャーカレッジ（イギリス）	8月20日～12月5日

【異文化圏体験学修（春）】14名（男2、女12）（前年度16）

場 所	日 程
フリンダース大学（オーストラリア）	2017年2月11日～3月19日
アシスタントティーチャー（アメリカ）	2017年2月12日～3月12日

【日本語・日本文化研修】（韓国人留学生受け入れ）なし（前年度5名）

## (7) こどもフェスティバル

震災の影響で中止を検討したが、学生たちの強い希望で例年どおり保育コース全学年が参加して開催。今年度から大学付属となった黒髪乳児保育園園児も一部出演し、185名の来場者から好評をいただいた。

## (8) カウンセリングルームジャニス（こころとそだちの臨床研究所）

開設から二年半が経過。2016年度カウンセリング総数251件（新規28件、継続223件）。収支改善と開設日、広報等について課題あり。

## (9) 地域連携

プログラムの拡大と充実を図り地域との連携を進めている。

### ①合志市との包括連携協定による事業

女性・子ども支援室へのソーシャルワーカー派遣、女性・子ども支援協議会への派遣、地域の家族見守りサポーター養成講座の企画および講師派遣

### ②菊陽町教育委員会との英語教育連携

キャリア・イングリッシュ専攻学生による「小学校英語フィールドワーク」で5、6年生の英語授業を担当教諭とのチームティーチング形式で支援。

### ③和水町との包括連携協定による事業

小学生対象の英語キャンプを実施。フィリア祭にて和水町物産展も開催。

## (10) 次年度に向けて（組織再編）

従来の委員会組織を見直し、学長室会、教育方針策定委員会、SD委員会を新設。生涯学習委員会を地域連携推進委員会に改編。運営会議を廃止。各委員会規程を整備した。

## (11) 大学付属黒髪乳児保育園

### ①園児の動向と今後の課題

2016年度の5月1日現在の園児数は定員60名に対して28名である。

その後、以下のように定員が増加した。

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園児数	28	30	30	30	31	34	41	41	41	40	40

今年度は12月以降も0歳児の入園希望が多数あったが、保育士の確保ができないことから園児受入ができなかった。よって、当初予定した45名の園児獲得は達成することができなかった。今後の課題として、年度途中の保育士獲得は困難であることから、新年度は保育士を3名から4名確保する方向で進めていく。

### ②保育の質の向上について

定期的な園内研修を実施する予定であった。しかし、熊本地震の影響で園内の落ち着きを取り戻した時期から1回の園内研修に留まっている。まずは、大学付属保育園であることの意味、大学の理念、保育園の理念に則った保育実践のあり方について研修を行った。また、職員全員の面談を実施し、職務に状況の確認、要望や課題などについて聞き取りを行った。今後は、園内研修を充実させ、質の向上を目指していきたい。

### ③地域交流事業の実施

地域に根ざした保育施設を目指し、積極的に地域交流を行った。

老人会との交流、伝承遊びなどを実施した。また、町内会長、第三者委員、民生委員（児童委員含む）と付属園及び大学関係者との懇談会を実施した。地域の方々から、「ルーテルになってとても明るくなった」との言葉をいただいた。これからも、地域との交流を深め、より良い関係を構築していきたい。

### ④設備の改善

建物が築45年を経えており、随所に傷みが出てきている。外壁、内装、建具の傷みは酷く、早急の補修が必要である。しかし、熊本地震のため業者の手配が着かない状況である。現在は大学の営繕部より手直しを行っていただいている。今後は大規模修繕が必要である。

## 2 中学・高校

### (1)「創立90周年記念事業」

- 記念式典（熊本県立劇場）・感謝会（ホテル日航熊本）の開催
- 創立90周年記念誌の発行

### (2)「平成28年熊本地震」復旧・復興及び教育環境の整備

- 避難所の開設。学院の教職員が、地域の方々に「感恩奉仕」を実践する機会となった。
- 本館・2号館・3号館・体育館・男女寮など、被災箇所の復旧工事と創造的復興
- パイプオルガンの修復（神戸親子ボランティア）
- 復興支援ボランティア受入と支援コンサート開催など
- ICT教育環境の整備と授業の取り組み

### (3) 教学内容<中学校>

- 自立した中学生の育成 ～行事の見直しと具体的な取り組み～

#### ◆「体験学習」を中学3学年全体で実施 9月28日（水）～30日（金）3日間

- 1年生：平成28年熊本地震により、ルーテル阿蘇山荘が使用できなかった。

「野外活動体験」は2日間に短縮して、阿蘇なみの高原やすらぎ交流館で内容を変更して行った。1日目は、「エコかまど作り」にチャレンジした。

- 2年生：「職場体験」を計画し実施できた。体験先と移動の安全確保のため、体験先と体験方法を改善して実施した。「つまずきからの学び」を経験させ、体験学習後の子どもたちの成長に期待したい。

- 3年生：慈愛園熊本ライトハウス（社会福祉法人慈愛園）で「福祉・ボランティア体験」を体験した。今後も施設の協力を得て、生徒たちの大きな成長のきっかけとしていきたい。

“ひとの心に触れ、自分の心を伸ばす”初日は生徒による事前学習。2日目は校内で熊本ライトハウスの先生方からの講義。3日目は福祉・ボランティア体験学習。

P T A活動（タオル等集め）とのつながりも強まった。

#### ◆学級づくり・集団づくり・仲間づくり

- 日々の礼拝や終礼、昼食指導・ホームルーム活動・行事などを通して学級づくりに取り組んだ。個人の成長と共に、集団の中で個人・個性を認め合う仲間づくり、生徒会活動でも表現力を高め、いきいきとした生徒の育成に努めることができた。

#### ◆スポーツデー ※熊本地震発生で開催できなかった体育大会に換えて開催

- 中学は、カントリーパークで体育大会に近い競技をクラス対抗の形式で行った。生徒会の主体的な働きとクラスのまとまりがあり、とても良い充実した生徒一人ひとりが輝いた一日となった。

#### ◆合唱コンクールの開催

- 今年で6回目、中学の伝統行事。合唱・伴奏・指揮ともにすばらしいコンクール。

特に、中学3年生が先輩として誇りを持ち、思いを込めてクラスで団結し合唱する姿には感動を覚える。今年も、大学チャペルで学院祭に合わせて開催した。多くの保護者の方を

お迎えし、良い雰囲気の中で、すばらしいコンクールだった。

この行事の取り組みが、卒業式における卒業生による感動的な合唱へとつながっていることも喜ばしいことである。

○一人ひとりの学力向上 ～確かな学力を身につける～

◆日々の確かな取り組み

➤担任が「能率手帳」（年度初めに使い方講座開催）と「自学ノート」の点検を行い、生徒が自己管理能力を高め、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上へとつなげている。

◆英語教育の充実

➤中学の英語教育を充実させるとともに、ネイティブイングリッシュティーチャーとの協力も“中学教育の強み”とし、コンテストに積極的に参加し、すばらしい成果を上げることができた。3級以上の合格率も確実に向上している。さらなる、英語教育の充実を図りたい。

◆授業アシスト制度の推進と改善

➤授業効率の向上と特別な支援を必要とする生徒に対応しながら授業管理をすることができた。より効率的で効果的な授業、生徒が主体的に取り組めるようにする。

◆「学びタイム」の実施

➤意欲的な生徒または学力不振や学習が遅れている生徒に対して、毎週木曜日と考査前および長期休暇中に「学びタイム」を実施した。学習ルームの活用が充実。また、習熟度別に実施することで成果を上げつつある。

◆進路部との連携による進学指導

➤中学学年会と進路部がより連携を図り、高校への進学指導が充実してきた。成績上位者が公立高校や県内私学を受験する傾向にあるが、ルーテル学院に進学し、学力の向上を目指す生徒が増えている。

○中学校におけるキャリア教育 ～将来を見通した進路設計～

◆「中学1年野外活動体験、中学2年職場体験、中学3年福祉・ボランティア体験」の系統化

➤同時期に中学全体で体験学習の行事を組み込んでおり準備に多忙感はあるが、中学部が系統立てた“つながり”ある体験学習となり、内容的にも年々充実している。

◆進路カウンセリング、進路ガイダンスなどの充実

➤二者面談および三者面談を通し、一人ひとりの将来の進路設計を考えるきっかけになっている。生徒がさらなる高みを目指すための進路指導を図りたい。

#### （4） 教学内容＜高 校＞

○進路保障について

➤志望校への合格という目標達成のために、受験指導と進路指導をしていきたい。  
これからも生徒たちの希望進路を達成できるように努力する。

○高校におけるキャリア教育 ～将来を見通した進路設計～

◆高校1年生 “マナー講座”

➤入学段階での取り組み、意識改革。キャリアにつながるマナーの習得。

卒業生講師をお招きし、「感恩奉仕」を実践する学びができた。

◆進路カウンセリング、進路ガイダンスなどの充実

➤二者面談および三者面談を通し、各学年に応じた具体的な進路相談や進路設計と進路決定につなげることができた。生徒がさらなる高みを目指す進路指導を図りたい。

## (5) 教学内容<中学・高校共通>

### ○キリスト教教育の充実教育

◆J 3 (ネイティブ英語教師) が高校3年修養会に参加

➤高校3年修養会にJ 3が参加し、プレゼンテーションとプログラムを企画・運営

◆受洗者祝福会 今年、いなかった。

### ○朝読書の充実

➤朝読書が、生徒に定着し、読書の必要性和豊かな心と教養につなげてほしい。

### ○「特別支援教育」と生徒への対応を高める取り組み

◆S S W (スクールソーシャルワーカー) の活用

➤私学協会の委託事業。学校で対応が困難な生徒および保護者にS S Wを活用することにした。学校側の努力と工夫で対応できないケースが多くなり、専門家のアドバイスを教育現場で生かすことができている。

◆サポート委員会での取り組み

➤発達障がい等への特別支援教育の指導体制が組織的に取り組めるようになった。

熊本県私学サポート事業の活用により、より効果的な指導プログラムを組むことができた。

また、授業アシスト制度との連携を図った。

### ○中学および高校各コースにおける定員100%充足

◆定員の充足率

➤中学57名(71.5%)、高校319名(99.7%)の入学生を迎えることができた。

中学の入学生が昨年より増えた。さらに、教育内容を充実させ、ルーテルの教育をアピールして募集につなげたい。

◆芸術コース入学者と募集活動

➤19名(音楽11名、美術8名)。指導内容と施設をより充実させ、芸術コースで1クラス編成できるよう努力する。まずは、芸術コース受験生の確保を図る。

➤「はな阿蘇美コンサート(5月の土曜日)」が熊本地震で実施できなかった。

「山鹿温泉プラザミニコンサート(8月の土曜日)」を総務部の協力を得て開催し、募集活動に努めた。

◆美術展(芸術コース美術)の開催 12月13日~18日 崇城大学ギャラリー

➤美術展を企画・開催。今回で5回目の取り組み。内容も充実、会場を訪れてくださる方も増えて、芸術(美術)の募集活動にもつながっている。

### ○グローバル教育・国際交流プログラム

◆韓国全州新興高校研修旅行 2017年3月18日(土)~28日(木)



➤高校1・2・3年生12名が参加。春休みの時期（新興高校は新学期）に定着し、高校生世代での国際交流が充実している。

◆中学カナダ（バンクーバー）語学研修旅行 2017年3月14日（火）～23日（木）

➤中学3年生5名と1名の引率教師（白石先生）で、実施することができた。

中学で学んだ英語力を生かす機会として、カナダで語学研修を毎年実施できることに喜びを感じる。この研修旅行での学びが参加生徒たちの高校での学習と将来につなげ、ルーテル学院中学生がグローバル社会で活躍することを夢見たい。

○ボランティア活動

◆夏休みを中心に、ボランティア活動を推進している。教会からの要請で、神水教会、室園教会、熊本教会、合志教会でボランティア活動を行っている。生徒の成長と共に、教会とのつながりを深めることができた。

## （6） 企画事業

○「中学2年沖縄研修旅行」 2016年12月6日（火）～9日（金）

➤沖縄での平和学習と共に興南中学校との交流（興南生エイサー披露）が充実した内容となった。また、見学地の首里城では、興南中学・高校社会科部の生徒によるガイドで首里城を散策し、知識と交流も深めることができた。

○「成人をともに祝う会」2017年1月10日（祝日） 礼拝堂・学院会館

➤のいばら会・PTA・ディアコノス会のご支援とご協力で実現した取り組み。

今回で5回目。のいばら会役員の横山さんが担当し準備を進め、生徒会の協力により、盛大に祝う会ができた。皆さまの協力を感謝申し上げたい。

○「中学平和学習」2017年3月14日（火）5・6・7限目 大学4301講義室

➤目的：聖書、建学の精神「感恩奉仕」からの学び、戦争という事実から平和の意味を深く理解し、平和を次世代へと継承する担い手になるために行う。

➤内容： 1) 「あゝひめゆりの塔」のDVD視聴（モノクロ 125分）

2) 中学2年生による沖縄研修旅行での現地学習発表会（30分）

3) レポート作成

・中学2年生：「平和の実現に向けて、今の私にできること」

・中学1年生：「沖縄研修旅行で学びたいこと」

※この会が生徒自身のものに定着するまでは、同じプログラムで実施している。

生徒たちの発表態度と発表内容に加え聴く態度も良くなった。平和について考え学ぶ会として成長している。生徒の主体的な準備や取り組む姿勢と教師側の指導が一体となり、非常にすばらしかった。また、中学1年生にとっては中学2年生の12月に行われる「沖縄研修旅行」に向けて、2年生の体験談を直接聞くことができ、先輩たちによる後輩への沖縄研修旅行事前学習の場となった。

今後も、ミッションスクールとして“平和”への学び大切に守り続けていきたい。

### 3 こども園

#### (1) 園児の動向

こども園の1年間の歩みを経て、ようやくこども園の実態がつかみかけ、給付費や補助金の窓口となる熊本市保育幼稚園課との行政の関わりがわかり始めたところで2年目を迎えた。しかし新入園児がまだ慣れる間もなく、地震発生を経験した4月からの1年は、園児の他県への避難や復帰など予想だにしないことの連続であった。地震対策として、園児の安全を第一に休園を余儀なく決断しようとした際に、阿蘇が就労場所の保護者や家庭の事情で預からざるを得ない状況が発生し、結果的には弁当持参で送迎可能な園児の為に18日以降こども園は通常通りの開園とした。

4月当初は(0歳児1名・1歳児12名・2歳児13名・子育て支援3名、3歳児44名・4歳児50名・5歳児44名)在籍数167名でスタートし、年度末の3月時点では定員180名に対し在籍数は169名となった。保護者の就労の増加がそのまま2号希望児の増加傾向にみられた。

#### (2) 活動報告

- ① 今まで以上に園児の安全確保・危機管理に取り組む姿勢が明確になった。
- ② キリスト教保育を基盤としたこども園の教育・保育の充実を行う。
- ③ 地域への開放として子育て支援(育児相談やこひつじの会)の充実を行った。
- ④ 特別支援教育については、年々支援を必要とする子ども達が増加傾向にあり、補助教諭の必要性和専門性が求められた。
- ⑤ 学校教育との連続性や発展性が明確になり、幼稚園と小学校・幼稚園と家庭などが重要視され、小・中学校との交流や研究課題が明確になってきた。
- ⑥ 認定こども園も検討課題におきつつ、将来に向けて『教職員の資質向上』を図る為に、研修の充実が求められた。

#### (3) 今後の課題

- ① キリスト教保育の充実 ⇒ 教師の資質向上と信仰教育
- ② 伝統を重んじながら、新たな魅力・特色あるこども園を目指す。
- ③ 発達支援の必要な子どもへの教育の充実を図る
- ④ 預かり保育・子育て支援の見直しと取り組みを実施する。
- ⑤ 適切な(保育・教師・幼稚園)評価に基づく開かれたこども園を目指す
- ⑥ 教員免許更新と保育士・幼稚園教諭資格取得の取り組みを積極的に行う。
- ⑦ ICT(情報通信技術)化に積極的に取り組み、園児管理・就労などの合理化を目指す。

## 4 法人・事務部門

### (1) 基本的な取り組み方針

法人・事務部門は『魅力ある学校を作る』を共通スローガンとして、業績向上、サービス向上、業務改善、成長の4つの視点で、全体、部署および個人の目標を設定し、個人面談を織り込みながら組織的に取り組んできた。特に機関・部署間の連携については、「学院は一つ」という意識のもと連携・協力に注力している。

業務については、サービス向上の基礎となる、管理性・業務効率・業務品質の向上に力を入れてきたが、今後も継続して取り組んでいく。

### (2) 熊本地震への対応について

2016年4月に発生した未曾有の大地震は、地域に甚大なる被害を及ぼしたが、学院も例外ではなかった。水・食糧等のライフラインの確保や、学院内に避難されてきた地域の人々への支援など、教職員が一致協力して避難支援や復旧復興に取り組んだ。建設業者とも早急に連携し、迅速に対応していただいた。幸い耐震工事は完了していたため、構造的な破壊までには至らず、ほとんどが補修工事となった。その結果、一時的には業務が停滞し、新年度の授業をスタートすることができなかったが、懸命の取り組みにより5月中旬には授業を再開することができた。被害総額は約1億5千万円となり、被災学生・生徒の支援のため授業料・納付金等の減免や、被害を受けた教職員への見舞金対応等支援を行った。

復旧復興支援に対しては、各方面から多くの義援金が寄せられ、学校再開への大きな励みとなり感謝したい。今後この教訓を生かし、防災を含むリスク管理体制を構築していきたい。

### (3) 強い職員集団づくり

職員の人材育成には特に力を入れ、建学の精神に基づく高い志と、実質的な知識・能力を持った、自律的職員集団の形成をめざして、体系的に取り組んでいる。全職員と全研修機会のマトリクスを作成して、計画的に研修を受講させている。特に2016年度は、大学コンソーシアム熊本SD委員会研修や、経営者協会交流会、ビジネスマナー研修会等で、更に成長の機会が広がった。

### (4) 組織の連携・強化

#### ① 学院レベルの委員会の見直し

学院全体に係る「学院レベルの委員会」を見直し、目的や内容を明確にするとともに、委員会の追加・統廃合を行い、学院全体の連携を強化した。

- ② 学内組織・メンバーの情報の共有化  
事務長会、課長会、事務会議、各委員会等で情報を共有化し、組織力及びコミュニケーション力の強化を図っている。
- ③ 学院研修会の実施  
外部講師を招き、「高大接続」をテーマに学院全体の研修会を実施。  
(2月23日)教職員約130名が参加し、実践的な高大接続の在り方について、理解を深めた。
- ④ 全職員研修会(SD)の実施(12月27日)  
全職員研修会では、「SD」をテーマにして、個人と組織の成長・役割についてディスカッションを行い、職員に求められる専門性と取り組むべき課題を明確にした。

#### (5) キリスト教精神の浸透、キリスト教学校教育同盟との連携

- ① 新年度新任者を対象としたオリエンテーションの実施(4月3日)
- ② 全教職員を対象とした学院クリスマス礼拝の実施(12月21日)
- ③ 宗教活動委員会への参加により宗教活動情報の共有化を図った。
- ④ ルーテル系学校キャンパスミッションへの参加(11月28日～29日)
- ⑤ キリスト教学校教育同盟西南地区事務長会参加(10月25日)

#### (6) 健全な財務基盤の確立

- ① 拡大中長期財務委員会の立ち上げ  
外部有識者を加えた拡大中長期財務委員会を立ち上げ、学院のあるべき姿を目指した中長期財務基本計画を策定し、数値目標を提示した。  
基本となる数値目標は基本金組入前当年度収支差額1億円であるが、2016年度は約1億円の見込み。今後さらに具体的な方策を検討する。
- ② 経理担当者会議による予算目標の進捗確認  
毎月各機関の経理担当者合同会議を開催し、予算目標への進捗確認と課題の検討を行った。併せて実務レベルの情報の共有化を図った。

#### (7) 人事・労務関係

- ① 教職員の身心の健康のために安全衛生委員会を中心として地道な活動を推進している。2016年10月にストレスチェック制度を導入し、第1回目を実施した。
- ② 外部講師を招きハラスメント研修会を実施し、基本的な対応の理解と体制づくりについて、情報を共有化した。(1月26日)
- ③ 就業規則を改正し、幼稚園(認定こども園)と大学付属乳児保育園に変形労働時間制を導入、2017年4月から実施することとなった。

## (8) 防災を含むリスク管理対策

第1回危機管理委員会を開き、熊本地震の教訓を今後に生かすために、1 地震対応状況の報告書のまとめ、2 備蓄方法、3 リスク管理ガイドラインの制定等について検討した。

## (9) 広報

- ① 生徒・学生の活躍や学院創立90周年記念事業、学院独自のイベント等マスコミ媒体に採り上げられた件数は年間48件であった。震災被害についてはホームページ等で情報発信を行った。
- ② 学院モニター会議の開催  
学院モニター会議を開催（1月27日）し、学院・学校の諸活動に関し各界・各層の有識者から意見を聴取するとともに、学院・学校の代表者と意見交換を行った。

## (10) 施設・環境整備

- ① 4月に熊本地震が発生し、校舎建物に補修費約1億5千万円の被害を受けた。耐震工事を完了していたため構造的な被害までには至らず、12月までに全て修復は完了。
- ② 学院トイレ改修計画（和式トイレを洋式へ改修）を立ち上げ、長期計画で取り組むこととなった。今後学院合同の施設整備委員会により、優先順位を検討予定。

## (11) 同窓会との連携

同窓会と連携し、学院創立90周年記念事業や募金活動等を協力推進した。2016年10月3日に90周年記念式典及び感謝会を開催した。また同窓会等に出席し、ネットワークづくりを行った。

## (12) 阿蘇山荘について

阿蘇山荘は熊本地震の発生により、全壊の被害を受け使用不能となった。復旧には多額の費用が必要と予想されるため、まず学校校舎の補修を優先することとなった。ただ内外の様々な条件が整えられれば、明確な時期は分からないものの、復旧を進める方向である。

## 5 宗教教育

### (1) 学院の宗教活動

キリスト教の建学精神に基づき、宗教活動・教育を行う中、本学は学校と教会が相互に協力できる働きを大変重視している。数年の模索を通して、今はその成果が見え始めており、両方の連携は深まっている。特に、県内各教派の牧師・司祭を招いたキャンパスミッション懇談会で、教会から沢山の有意義な提案をいただいたので、詳しく検討の上、段階的に実施している。例えば、各教派の力を合わせて行われており、定番の行事になったユースデーキャンプがある。昨年、地震のため阿蘇山荘で行えなくなったが、別の会場で予定通りに実施することができた。これからも、学校と教会の連携がますます深まることを願っている。その他、クリスマス関連行事、キリスト教学校同盟及びルーテル諸学校との交流も定着している。また、クリスマスイルミネーション点灯式も本学院の定番行事である。

### (2) 大学における宗教活動

大学では、教職員の宗教委員会と学生のチャペル委員会によって宗教活動を進めている。2016年度、宗教委員会のメンバーは10名、チャペル委員会のメンバーは82名であった。主な宗教活動は毎日の礼拝である。大学での礼拝は自由参加だが、参加者が多く、日々心静める時を過ごしている。本学の学生はほぼ全員、入学によってキリスト教と出会い、また、チャペル委員の活躍によって、礼拝に多く参加する。

2016年度は135回の礼拝が行われ、年間平均出席率は12.9%台を維持した。皆勤者が13名、1～2回欠席の精勤者が9名であった。その中、4年間皆勤・精勤者が1名であった。礼拝を好きになった学生が多かったという印象をもった。礼拝では色々な表彰式や、祝福式なども行っている。他の主な行事としては、サマーキャンプ及びクリスマス礼拝などがある。但し、地震のため、教会との共同行事としている阿蘇山荘清掃は中止としている。

### (3) 中学・高校における宗教活動

熊本地震によって4月の半ばから約3週間、生徒たちの登校がなかったため、その期間中は礼拝とキリスト教行事も行われなかった。しかし皆が実感した困難の時期であったからこそ、生徒においても教職員においても集まりごとに奉げられた祈りは、かえって意味をもつものだったと感じる。復興を願い、復興に感謝する内容が、例年には無かった礼拝のテーマとなった。学校の工事が終わって迎えた10月には、創立90周年記念式典と講演会を通して私たちの学院の歴史と存在意義について、いつもより考える時期となった。

残念ながら、クリスマス礼拝を行う季節にインフルエンザの罹患者が多数出たため、クリスマス関連行事が形を変えて行われたり、中止となったりした。

例年行わるキリスト教行事の中、点灯式に関する課題が指摘され、学院で検討することとなった。インフルエンザと天候の影響で中止にはなったが、伝統的に行われてきたクリスマスキャロリングに対しても今後の実施について検討する必要性を感じた。

### (4) こども園における宗教活動

- ・毎週水曜日に黄チャプレンの司式により園児合同礼拝（15分）を行い、園児の保育の中では、担任が毎朝讃美をし、欠席児やその日の出来事を祈って一日を開始する。
- ・毎日朝8:00からの全職員の礼拝と、保護者対象の『聖書の学び』（年間8回程度）を黄チャプレンが担当している。
- ・園児向けの聖書の話しは、牧師・園長・教師によって聖書歴にそって視聴覚教材等を使用しながら行っている。

6 入試結果・入園入学状況(2016年4月入学者)

学校名	種別	志願者数	合格者数		入学(園)者数	
こども園	0歳児				(5/1時点)	1
	1歳児					6
	2歳児					5
	3歳児					27
	4歳児					6
	5歳児					4
	計					49
中学 募集定員 80	専願	26	奨学生A	1	奨学生A	1
			奨学生B	3	奨学生B	3
			奨学生C	-	奨学生C	-
			専願生	14	専願生	14
	奨学前期・後期	48	奨学生A	-	奨学生A	-
			奨学生B	6	奨学生B	5
			奨学生C	8	奨学生C	7
			奨学生D	1	奨学生D	1
	一般前期・後期	24	奨学生A	-	奨学生A	-
			奨学生B	5	奨学生B	5
			奨学生C	1	奨学生C	1
			一般生	12	一般生	12
	計	98		51		49
高校 募集定員 320	専願	140	奨学生S	2	奨学生S	2
			奨学生A	8	奨学生A	8
			奨学生B	14	奨学生B	14
			奨学生C	18	奨学生C	18
			専願生	86	専願生	86
	奨学	511	奨学生S	1	奨学生S	-
			奨学生A	27	奨学生A	4
			奨学生B	82	奨学生B	11
			奨学生C	253	奨学生C	69
			奨学生D	78	奨学生D	30
	一般	225	奨学生S	-	奨学生S	-
			奨学生A	1	奨学生A	-
			奨学生B	3	奨学生B	-
			奨学生C	-	奨学生C	-
			一般生	167	一般生	76
	ルーテル中学	39	奨学生S	3	奨学生S	3
			奨学生A	3	奨学生A	3
			奨学生B	4	奨学生B	4
			認定生	29	認定生	29
	計	915		779		357

学校名	種別	志願者数	合格者数	入学(園)者数
大学 (人文学科) キャリアイングリッシュ 専攻 募集定員 35名	指定校推薦(併設校内数)	24(8)	24(8)	24(8)
	公募推薦	3	3	3
	授業料全額免除推薦	2	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	39	19	12
	一般Ⅱ期	13	2	2
	センター試験利用	19	7	1
	編入学	2	0	0
	長期履修学生(編入学)	0	0	0
	計	102	55	42
大学 (人文学科) こども専攻 保育コース 募集定員 30名	指定校推薦(併設校内数)	12(4)	12(4)	12(4)
	公募推薦	17	7	7
	授業料全額免除推薦	1	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	30	16	10
	一般Ⅱ期	5	2	1
	センター試験利用	9	4	0
	計	74	41	30
大学 (人文学科) こども専攻 児童教育コース 募集定員 10名	指定校推薦(併設校内数)	2(1)	2(1)	2(1)
	公募推薦	6	3	3
	授業料全額免除推薦	1	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	65	17	8
	一般Ⅱ期	20	5	2
	センター試験利用	27	5	0
	計	121	32	15
大学 (心理臨床学科) 募集定員 75名	指定校推薦(併設校内数)	29(8)	29(8)	29(8)
	公募推薦	19	8	8
	授業料全額免除推薦	2	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	2	0	0
	一般Ⅰ期	94	51	32
	一般Ⅱ期	41	9	8
	センター試験利用	29	21	2
	編入学	6	1	1
	長期履修学生(一般入学)	0	0	0
	長期履修学生(編入学)	1	1	1
	計	223	120	81
定員150	大学合計	520	248	168
大学院人文学 研究科 (障害心理学専攻)	一般選抜	1	0	0
	社会人選抜	8	7	6
	計	9	7	6

\* 一般Ⅰ期・Ⅱ期、センター試験利用の合格者は第2第3の希望を含む。

\* 公募推薦の合格者は、授業料全額免除推薦の志願者(併願)を含む



## 7 卒業生数及び進学・就職状況(2017年3月卒業者)

(1) 2016年度卒業・卒園数 (人)

認定こども園ルーテル学院幼稚園	45
ルーテル学院中学校	72
ルーテル学院高等学校	369
九州ルーテル学院大学	192
九州ルーテル学院大学・大学院	6

(2) 2016年度卒業生の進学・就職の状況

① 中学校 (人)

進学

ルーテル学院高等学校	54
その他	18
合計	72

② 高等学校

進学(合格者延人数) (人)

大学	国公立	15
	私立	270
	九州ルーテル学院大学	26
準大		0
短期大学	国公立	2
	私立	24
専門学校		104
合計		441

就職 (人)

産業別就職者	公務員	4
	サービス業	8
合計		12

都道府県別就職者	熊本県	10
	県外	2
		12

③ 大学

第17期生 一般企業(希望77人 決定者73人) (人)

卸・小売業	18
金融・保険業	8
サービス業	7
運輸業	6
飲食店・宿泊業	6
情報通信業	6
製造業	5
建設業	4
不動産業	4
生活関連サービス業	4
教育・学習支援業	2
学術研究・サービス業	2
医療事務	1
合 計	73

第17期生 医療・福祉(希望者17人 決定者17人)

医療・福祉(内、精神保健福祉士希望者11人、合格者8人、合格率72)	17
------------------------------------	----

第17期生 公務員(希望者2人 決定者2人)

校務員	2
-----	---

第17期生 保育士・幼稚園教諭・施設保育士(希望者39人、決定者39人)

熊本市保育所	1
宇土市幼稚園	1
保育士	15
幼稚園教諭	22
合 計	39

第17期生 教員(希望者29人、決定者27人)

熊本県教員	6
福岡市教員	1
宮崎市教員	1
臨時教員	19
合 計	27

【その他】

進学	7
青年海外協力隊	1
家業継承	1
合 計	9

## 8 施設等の状況

(1) 学院が所有する校地・校舎 (2016年5月1日現在) (単位: m<sup>2</sup>)

所在地	施設等	校地面積	校舎面積	利用対象
熊本市中央区黒髪三丁目2 69番地 他 (黒髪キャンパス)	校地	46,426.28		大学、中高、 幼稚園
	校舎15棟 (学院会館、学生 自治会棟含む)		21,434.78	同上
	体育館1棟		1,925.88	中高
	部室棟2棟		395.28	同上
	寮2棟		4,157.11	同上
	その他		82.88	守衛室、 トイレ棟
熊本市北区鶴羽田五丁目9 52番地他 (菊南グラウンド)	校地	48,987		大学、 中高(野球部)
	部室、監督室他		342.41	同上
合志市野々島中野4393 番56他 (野々島グラウンド)	校地	19,099		中高 (サッカー部)
	クラブハウス		228.8	同上
	部室棟他		85.31	同上
阿蘇郡南阿蘇村河陽432 6番4他(阿蘇山荘)	校地	37,059		総務部で管理
	建物5棟		719.66	同上
熊本市中央区黒髪二丁目8 27番 (大学付属黒髪乳児保育園)	保育園1棟	633.11	369.81	保育園
合 計		152,204.39	29,741.92	

(2) 2016年度に実施した工事

### ①熊本地震災害復旧工事

4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けたが、耐震工事を完了していたため構造的な被害は少なく、外壁、天井、設備等の補修を行い、12月末までに工事は完了した。工事費内訳は以下のとおり。

【大 学】	建物補修	4,630万円
	地盤補修	395万円
	設備・備品	127万円
【中 高】	建物補修	1億139万円
	施設・設備	66万円
【幼稚園】	室内補修	21万円
	工事費総額	1億5,378万円

(保険金32百万円確定、補助金約92百万円見込み)

## 9 年間行事

(2016年4月～2017年3月)

月	大学	付属黒髪乳児園
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式、1年次生保護者会</li> <li>新学期オリエンテーション</li> <li>フレッシュマンキャンプ（新入生歓迎オリエンテーション）</li> <li>前期開講</li> <li>地震による休講（4月15日～5月12日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学期始園式</li> <li>開園式</li> <li>お見知り遠足</li> <li>保護者会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月13日授業再開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談</li> <li>地域老人会との交流</li> <li>芋苗植え</li> <li>健康診断</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生歓迎スポーツデー</li> <li>避難訓練</li> <li>大学説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育参観・育児講座</li> <li>プール開き</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンソーシアム進学ガイダンス</li> <li>大学院説明会</li> <li>第1回オープンキャンパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>七夕</li> <li>夏祭り（地域老人会との交流）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期最終週（定期試験）</li> <li>第2回オープンキャンパス</li> <li>異文化体験学修</li> <li>教員免許状更新講習</li> <li>保育士特例制度科目集中講義</li> <li>保育コース・リカレント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プール収め</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>サマーキャンプ</li> <li>第3回オープンキャンパス</li> <li>後期開講</li> <li>大学院入学試験</li> <li>学生支援懇談会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祖父母との集い</li> <li>運動会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>90周年記念式典</li> <li>2年次生保護者会</li> <li>ペプ・ラリー</li> <li>こどもフェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談</li> <li>にんじんクラブ参加</li> <li>こどもフェスティバル</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームカミングデー</li> <li>フィリア祭</li> <li>第4回オープンキャンパス</li> <li>指定校推薦入学試験</li> <li>授業料全額免除、公募推薦入学試験</li> <li>避難訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団子汁会（地域老人会との交流）</li> <li>内科検診</li> <li>勤労感謝訪問</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレ・カレッジ</li> <li>クリスマス礼拝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会</li> <li>歯科検診</li> <li>老人会との交流会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試センター試験</li> <li>後期最終週（定期試験）</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般Ⅰ期、私費外国人留学生、編入学入学試験</li> <li>大学入試センター利用入学試験</li> <li>異文化体験学習</li> <li>卒業研究発表会</li> <li>修士論文発表会</li> <li>大学院入学試験（二次）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豆まき</li> <li>保育参観</li> <li>老人会との伝承遊び</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般Ⅱ期、長期履修学生入学試験</li> <li>卒業式、修了式、Farewell Party</li> <li>兼任講師懇談会</li> <li>合格者招集日</li> <li>名誉教授表彰式</li> <li>在学生オリエンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひな祭り</li> <li>お別れ遠足</li> <li>お別れパーティー</li> <li>卒園式</li> </ul>

(2016年4月～2017年3月)

月	中学・高等学校	こども園	学院全体
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>男子寮・女子寮 入寮式</li> <li>入学式</li> <li>始業式</li> <li>中学1年生修養会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園式</li> <li>新学期始園式</li> <li>入園感謝親子礼拝</li> <li>イースター礼拝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞令交付式</li> <li>新任職員オリエンテーション</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A総会、懇談会、懇親会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母の日礼拝</li> <li>健康診断（内科・歯科・耳鼻科）</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校3年生修養会</li> <li>前期中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育参観</li> <li>花の日礼拝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決算会計監査</li> <li>理事会・評議員会</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校第1回オープンキャンパス</li> <li>中学第1回入試説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デイキャンプ</li> <li>1学期終園式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学院歓迎会</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>私学教育一斉研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休暇預かり保育</li> <li>夏期保育</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミッションクリーン</li> <li>高校第2回オープンキャンパス</li> <li>前期期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期始園式</li> <li>祖父母お祝い会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会・評議員会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期始業の辞</li> <li>学院祭</li> <li>中学第2回入試説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会</li> <li>収穫感謝礼拝</li> <li>バザー（保護者主催）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立90周年記念事業</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校第3回オープンキャンパス</li> <li>後期中間考査</li> <li>音楽会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度入園児願書受付</li> <li>芋ほり遠足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームカミングデー</li> <li>クリスマスイルミネーション点灯式</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学2年生研修旅行</li> <li>クリスマス礼拝、キャロリング、早天礼拝</li> <li>中学入試（専願・奨学前期）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期終園式</li> <li>未就園児クリスマス会</li> <li>クリスマス礼拝</li> <li>年長組家族礼拝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会・評議員会</li> <li>半期決算会計監査</li> <li>教職員クリスマス礼拝</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学入試（一般前期・奨学後期）</li> <li>高校1年生研修旅行</li> <li>高校入試（専願・奨学、実技「体育・芸術」）</li> <li>熊本バンド早天祈祷会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学期始園式</li> <li>年中組家族礼拝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年礼拝</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学入試（一般後期）</li> <li>中学入学者登校日</li> <li>高校入試（一般）</li> <li>後期期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育参観（だご汁）</li> <li>観劇会</li> <li>もも・年少組家族礼拝</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校卒業式</li> <li>中学卒業式</li> <li>高校入学者登校日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒園感謝礼拝（室園教会）</li> <li>卒園式</li> <li>終園式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会・評議員会</li> </ul>

### Ⅲ財務の概要

#### 1 決算の概要

本学院の会計は「学校法人会計基準」に基づいている。決算の見方は、事業報告書巻末の解説を参照されたい。

##### (1) 貸借対照表の概要

(単位・千円)

科目		2016年度末	2015年度末	増減
資産の部	固定資産	4,721,965	4,780,368	△58,403
	有形固定資産	4,454,553	4,525,775	△71,222
	土地	1,466,148	1,466,148	0
	建物	2,176,664	2,232,038	△55,374
	その他有形固定資産	811,741	827,589	△15,848
	特定資産	251,000	246,000	5,000
	減価償却引当特定	165,000	160,000	5,000
	退職給与引当特定	86,000	86,000	0
	その他の固定資産	16,412	8,593	7,819
	流動資産	691,576	536,133	155,443
	現金預金	529,995	425,194	104,801
	その他流動資産	161,581	110,939	50,642
	<b>資産の部合計</b>		<b>5,413,541</b>	<b>5,413,541</b>
負債の部	固定負債	688,092	716,761	△28,669
	長期借入金	424,080	443,380	△19,300
	その他固定負債	264,012	273,381	△9,369
	流動負債	210,586	209,699	887
	短期借入金	66,758	61,754	5,004
	その他流動負債	143,828	147,945	△4,117
<b>負債の部合計</b>		<b>898,678</b>	<b>898,678</b>	<b>926,460</b>
純資産の部	基本金	6,513,623	6,420,374	93,249
	第1号基本金	6,384,623	6,291,374	93,249
	第4号基本金	129,000	129,000	0
	繰越収支差額	△1,998,760	△2,030,333	31,573
	翌年度繰越収支差額	△1,998,760	△2,030,333	31,573
<b>純資産の部合計</b>		<b>4,514,864</b>	<b>4,514,864</b>	<b>4,390,041</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>		<b>5,413,541</b>	<b>5,413,541</b>	<b>5,316,501</b>

## (2) 資金収支計算書の概要

(単位・千円)

収入の部	2015年度決算	2016年度予算	2016年度決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,295,170	1,285,303	1,290,420	△4,750
手数料収入	30,613	25,958	25,097	△5,516
寄付金収入	29,851	85,070	86,935	57,084
補助金収入	590,285	704,306	685,896	95,611
資産売却収入	2,415	371	371	△2,044
付随事業・収益事業収入	60,382	61,836	62,892	2,510
受取利息・配当金収入	350	330	155	△195
雑収入	67,181	94,688	96,797	29,616
借入金等収入	0	50,000	50,000	50,000
前受金収入	90,819	89,634	92,684	1,865
その他の収入	623,048	792,197	954,744	331,696
資金収入調整勘定	△193,125	△157,519	△244,876	△51,751
前年度繰越支払資金	483,322	425,194	425,194	△58,128
<b>収入の部 合計</b>	<b>3,080,310</b>	<b>3,457,367</b>	<b>3,526,308</b>	<b>445,998</b>
支出の部				
人件費支出	1,322,908	1,370,974	1,378,395	55,487
教育研究経費支出	325,553	478,954	467,594	142,041
管理経費支出	152,266	171,104	165,048	12,782
借入金等利息支出	9,253	8,286	5,968	△3,285
借入金返済支出	61,754	62,796	64,296	2,542
施設関係支出	180,711	3,195	3,192	△177,519
設備関係支出	61,033	36,814	44,081	△16,952
資産運用支出	44,035	5,011	25,011	△19,024
その他の支出	539,868	787,683	871,994	332,126
資金支出調整勘定	△42,264	△27,831	△29,265	△12,999
翌年度繰越支払資金	425,194	560,383	529,995	104,801
<b>支出の部 合計</b>	<b>3,080,310</b>	<b>3,457,367</b>	<b>3,526,308</b>	<b>445,998</b>

2016年度の資金収支は、翌年度繰越支払資金が1億4百万円増加した。

変動の大きな要因は以下のものが挙げられる。

## 【主要な収支改善要因】

- 寄付金収入の増加 : 震災義援金、サッカー募金等44百万円、90周年記念寄付金42百万円等により、前年比57百万円の増加となった。
- 補助金の増加 : こども園、保育園の施設給付費が74百万円増加、震災補助金(中高分)69百万円などにより、前年比95百万円の増加となった。

雑収入の増加 : 地震被害に伴う保険料収入32百万円等により、前年比29百万円増加した。

借入金収入の増加 : 地震災害復旧資金として、借入を50百万円行った。

施設関係支出の減少 : 震災復旧工事を優先し、施設関係支出を抑制したため、前年比1億77百万円の減少となった。

【主要な収支悪化要因】

人件費の増加 : 保育園職員の増員、退職金支出の増加(19百万円)等により、前年比55百万円の増加となった。

教育研究費支出の増加 : 震災に伴う復旧補修工事費1億22百万円等により、前年比1億42百万円の増加となった。

(3) 事業活動収支計算書の概要

(単位・千円)

		科目	2015年度決算	2016年度予算	2016年度決算	前年比
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,295,170	1,285,303	1,290,420	△4,750
		手数料	30,613	25,958	25,097	△5,516
		寄付金	5,510	47,430	50,295	44,785
		経常費等補助金	590,285	639,518	616,918	26,633
		付随事業収入	60,382	61,836	62,892	2,510
		雑収入	42,219	45,722	47,879	5,660
		<b>教育活動収入計</b>	<b>2,024,178</b>	<b>2,105,767</b>	<b>2,093,501</b>	<b>69,323</b>
	事業活動支出の部	人件費	1,348,824	1,318,599	1,325,713	△23,111
		教育研究経費	457,229	616,854	597,546	140,317
		管理経費	166,382	187,190	180,911	14,529
		徴収不能額等	3	340	501	498
<b>教育活動支出計</b>		<b>1,972,437</b>	<b>2,122,983</b>	<b>2,104,671</b>	<b>132,234</b>	
<b>教育活動収支差額</b>		<b>51,740</b>	<b>△17,215</b>	<b>△11,170</b>	<b>△62,910</b>	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	350	330	155	△195
		<b>教育活動外収入計</b>	<b>350</b>	<b>330</b>	<b>155</b>	<b>△195</b>
	事業活動支出の部	借入金等利息	9,253	8,286	5,968	△3,285
		<b>教育活動外支出計</b>	<b>9,253</b>	<b>8,286</b>	<b>5,968</b>	<b>△3,285</b>
<b>教育活動外収支差額</b>		<b>△8,903</b>	<b>△7,956</b>	<b>△5,813</b>	<b>3,090</b>	
<b>経常収支差額</b>		<b>42,837</b>	<b>△25,171</b>	<b>△16,983</b>	<b>△59,820</b>	



特別 収 支	事業活動収入の部	科 目	2015 年度決算	2016 年度予算	2016 年度決算	前年比
		資産売却差額	387	0	371	△16
その他の特別収入	24,340	136,660	141,435	117,095		
	<b>特別収入計</b>	<b>24,727</b>	<b>136,660</b>	<b>141,806</b>	<b>117,079</b>	
事業活動支出の部	資産処分差額	0	0	0	0	
	その他の特別支出	0	0	0	0	
	<b>特別支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>特別収支差額</b>		<b>24,727</b>	<b>136,660</b>	<b>141,806</b>	<b>117,079</b>	
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>		<b>67,565</b>	<b>111,488</b>	<b>124,823</b>	<b>57,258</b>	
基本金組入額合計		△ 350,536	△ 113,490	△ 93,249	257,287	
当年度収支差額		△ 282,972	△ 2,002	31,573	△ 251,399	

2016年度の事業活動収支は、教育活動収支差額が△11百万円、教育活動外収支差額が△6百万円、特別収支差額が1億41百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は1億25百万円となった。なお一過性の収支増減要因として、以下のものが挙げられる。

【増収要因】

現物寄付 : 熊本市からの保育園施設無償譲渡33百万円  
 施設設備補助金 : 地震被害に伴う施設設備補助金69百万円  
 保険金雑収入 : 地震被害に伴う保険金32百万円

【減収要因】

地震被害復旧工事費 : 地震被害に伴う復旧補修工事費総額1億53百万円

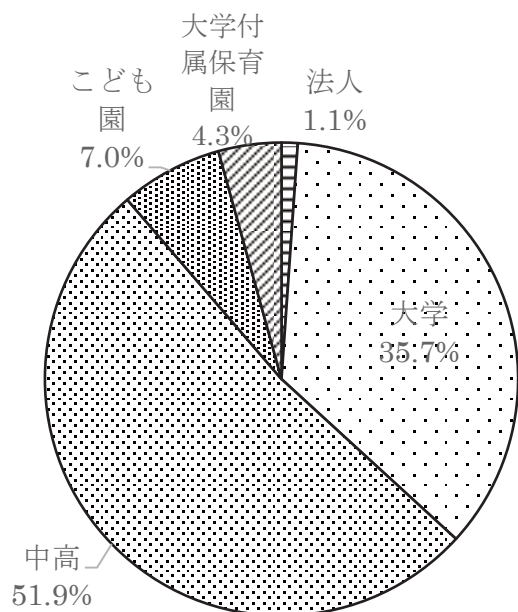
基本金組入前当年度収支差額と減価償却額の内容は下表のとおり。

	2015 年度決算	2016 年度予算	2016 年度決算	前年比
<b>基本金組入前 当年度収支差額</b>	<b>67,565</b>	<b>111,488</b>	<b>124,823</b>	<b>57,258</b>
大学	△ 17,786	△ 15,511	△ 25,017	△7,231
高校	83,878	70,482	77,851	△6,027
中学校	13,740	15,850	27,601	13,861
こども園	12,638	11,925	18,673	6,035
保育園		41,675	36,670	36,670
法人	△24,906	△12,933	△10,956	13,950
<b>減価償却額</b>	<b>145,792</b>	<b>157,136</b>	<b>144,219</b>	<b>△1,573</b>
減価償却累計額	2,298,794		2,379,862	81,068

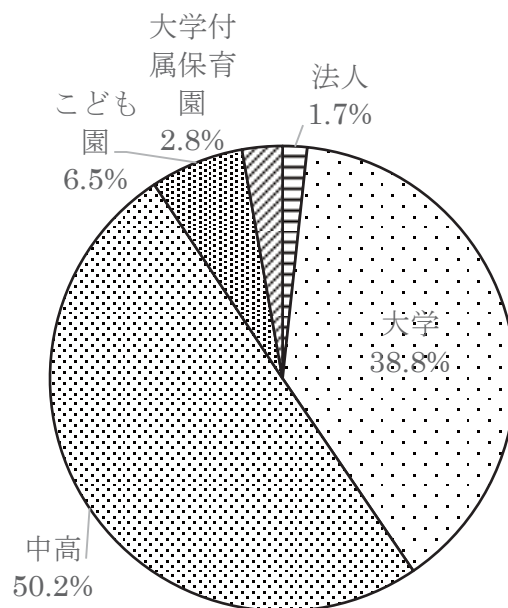
(4) 収支の機関別内訳

法人全体の事業活動収支の機関別内訳は、次のグラフのとおりである。

【事業活動収入】



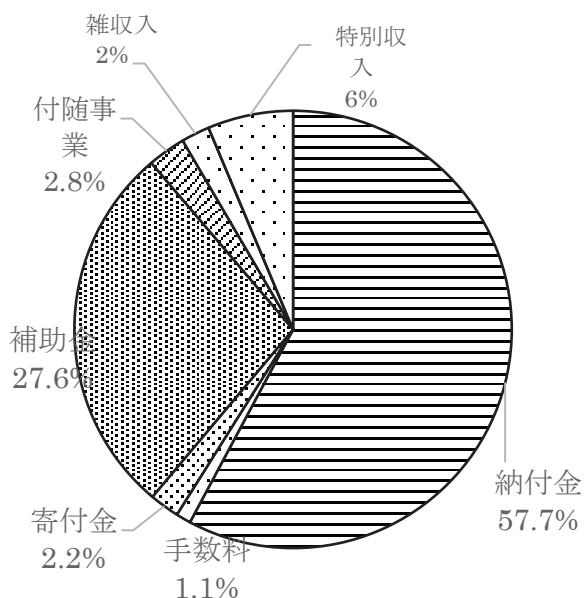
【事業活動支出】



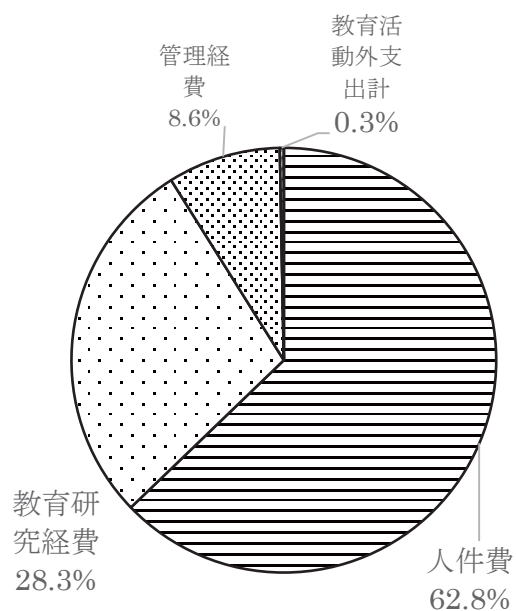
(5) 収支の大科目別内訳

法人全体の事業活動収支の大科目別内訳は、次のグラフのとおりである。

【事業活動収入】



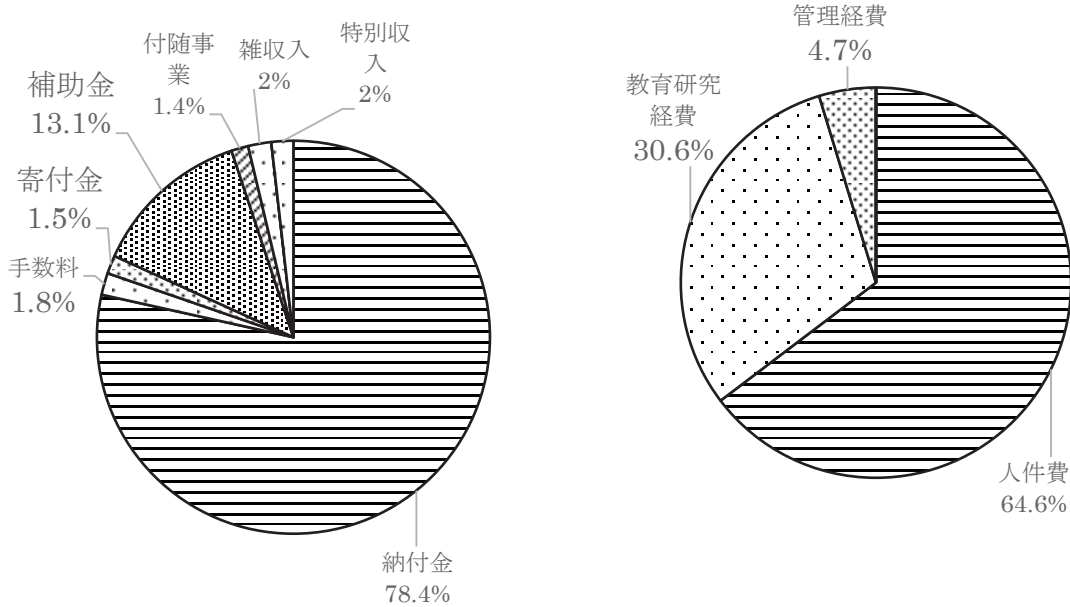
【事業活動支出】



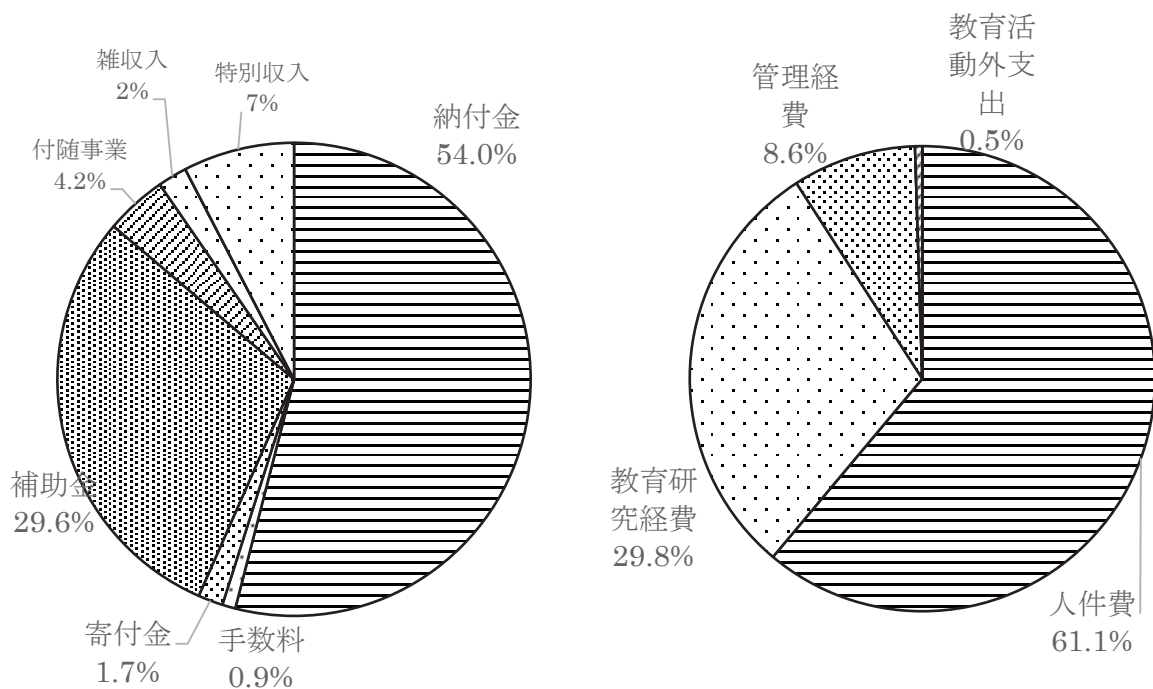
(6) 機関別収支の内訳

各機関の事業活動収支の大科目別内訳は、次のグラフのとおりである。  
 なおグラフにおいて、こども園の収入の内訳について注意が必要である。納付金  
 (基本保育料+給食費)は保護者が負担する保育料であるが、負担を軽減するために  
 不足分を在園児居住の各市が補助金(施設型給付費)として補助を行っている。

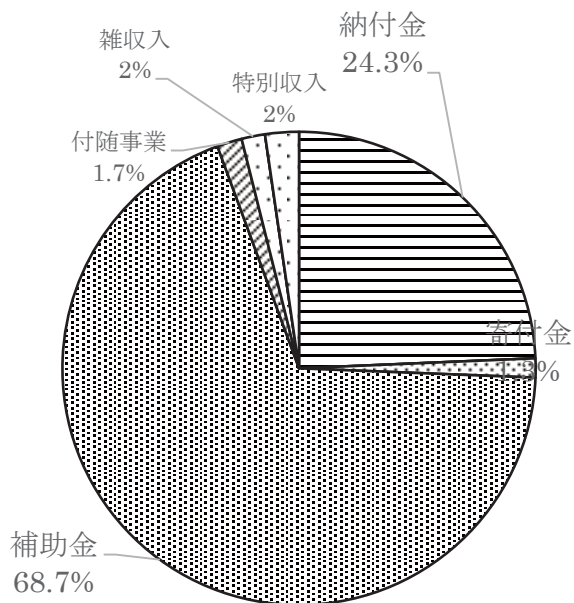
【大学の事業活動収支の構成】



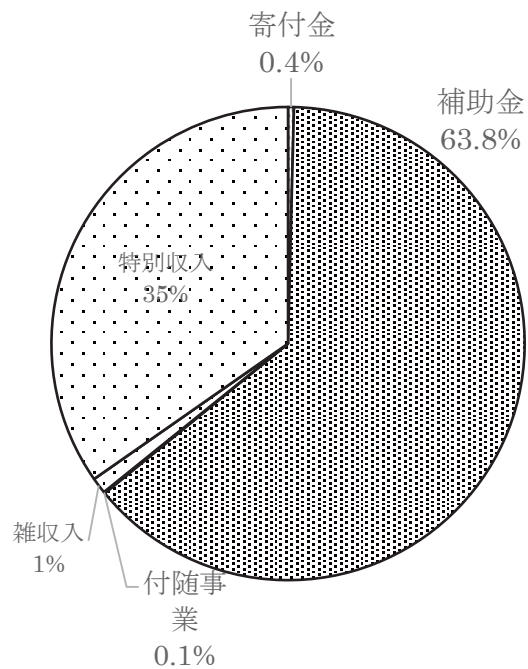
【中学・高校の事業活動収支の構成】



【こども園の事業活動収支の構成】



【大学保育園の事業活動収支の構成】



### 主な財務比率

\*2015年度から改正された学校法人会計基準に基づいた財務比率

#### 1. 【貸借対照表関係比率】

※△高いほど良い ▼低いほど良い

観点	比率名	算式	2015年度	2016年度	平均値	良い	留意点・本学院の傾向等
自己資金は 充実しているか	純資産構成比率	純資産 負債＋純資産	82.6%	83.4%	85.2%	△	年々改善してきたが、 今後も継続して取り組む。
	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 負債＋純資産	-38.2%	-37.3%	-12.1%	△	改善傾向にはあるが、 今後も継続して取り組む。
固定資産は長期資金で まかなわれているか	固定比率	固定資産	108.9%	104.9%	108.7%	▼	長期的資金の安全性指標。100%以下が望ましい。 純資産がまだ小さい。
	固定長期適合率	固定資産 純資産＋固定負債	93.6%	91.0%	98.3%	▼	安全性指標。100%以下が健全。
資産構成はどうか	固定資産構成比率	固定資産	89.9%	87.4%	92.6%	▼	総資産に対する固定資産の割合。
	有形固定資産構成比率	有形固定資産 総資産	85.1%	82.5%	53.3%	▼	総資産に対する有形固定資産の割合。 改善傾向。
	特定資産構成比率	特定資産 総資産	5.6%	4.6%	37.5%	△	各種引当特定資産等の長期的資産の 蓄積状態を表す。
	流動資産構成比率	流動資産 総資産	12.2%	12.6%	7.4%	△	短期的な支払能力指標。平均値より高い。
	流動比率	流動資産 流動負債	255.7%	322.4%	129.7%	△	短期的な支払能力指標。 短期負債の返済能力は問題なし。
負債に備える資産が 蓄積されているか	退職給与引当 特定資産保有率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	32.8%	33.2%	100.0%	△	将来への準備資金。
	積立率	運用資産 要積立額	26.2%	29.6%	85.8%	△	改善傾向ではあるが、運用資産の確保が必 要。
資産の保有状況	固定負債構成比率	固定負債 負債＋純資産	13.5%	12.7%	9.1%	▼	確実に返済しつつも、長期に償還すべき負債 がまだ多い。
	流動負債構成比率	流動負債 負債＋純資産	3.9%	3.9%	5.7%	▼	流動負債は低く、問題なし。
負債の割合はどうか	総負債比率	総負債 負債＋純資産	17.4%	16.6%	14.8%	▼	年々改善してきている。
	負債比率	総負債 純資産	21.1%	20.0%	17.4%	▼	他人資金は自己資金を上回っていない。 年々改善。

※平均値は、私学事業団まとめの数値

\*2015年度から改正された学校法人会計基準に基づいた財務比率

2【収支計算書関係比率】

※△高いほど良い ▼低いほど良い

観点	比率名	算式	2015年度	2016年度	平均値	良い	留意点・本学院の傾向等
経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	3.3%	5.0%	5.0%	△	平均値まで改善してきた。
	経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	2.1%	-0.8%	3.5%	△	経営の健全性指標。 震災補修費の増加で経常収支マイナス。
	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	2.6%	-0.5%	2.8%	△	学校本来の教育活動の収支パランス。 震災補修費の増加が影響。
	減価償却額比率	減価償却額 経常支出	6.6%	6.8%	12.6%	△	現状程度で推移。
	学生生徒等納付金比率	学生生徒納付金 経常収入	64.0%	61.6%	76.4%	△	安定した学生生徒の確保が今後も必要。
	寄付金比率	寄付金 事業活動収入	0.3%	2.3%	1.9%	△	90周年及び震災募金で寄付金が増加、 比率が上昇した。
収入の構成は どうなっているか	補助金比率	補助金 事業活動収入	28.8%	27.8%	11.1%	△	恒常的補助金対策が必要。
	人件費比率	人件費 経常収入	63.4%	63.3%	50.7%	▼	共済掛金等の福利費増加はあるものの現状維持 で推移。(退職金除く)
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	104.1%	102.7%	66.4%	▼	人件費が学生生徒納付金を上回っている。
	教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	22.6%	28.5%	40.2%	△	教育研究活動の維持・発展を支える。 震災補修費・奨学費増加。

※平均値は、私学事業団まとめの数値

## 2 その他

### (1) 有価証券の状況

区分	銘柄	帳簿価額	表示科目
株式	キリスト新聞社	5万円	有価証券

### (2) 借入金の状況

借入先	借入残高	利率	担保等
公的金融機関	3,332万円	1.8%	あり
市中銀行・信用金庫	4億5,751万円	0.61~2.4%	あり

(3) 学校債の状況 学校債は、発行していません。

### (4) その他

#### ① 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
新入生寄付金	保護者	106万円	
一般寄付金	保護者	94万円	卒業(園)記念寄付金
	保護者、団体	104万円	行事等教育活動支援
特別寄付金	保護者、団体、教職員	3,814万円	熊本地震復興支援義援金
	保護者、団体、教職員	3,571万円	90周年記念事業寄付金
	保護者、団体、教職員	561万円	サッカー全国大会寄付金
	企業	170万円	教育活動支援等
	保護者、団体	130万円	パイオニオン維持寄付金
	保護者、旧教職員	105万円	学院施設設備寄付
	高校同窓会	20万円	海外研修支援金
現物寄付金	熊本市	3,300万円	黒髪乳児保育園建物
	一般有志、企業、教職員	281万円	絵画、タブレット端末等

全体で8,693万円の寄付金、及び、3,581万円の現物寄付をいただきました。その内訳は上の表のとおりです。

「90周年記念事業寄付金」には、前事業年度までに私学事業団に預託していた企業からの受配者指定寄付金の受配金額(96件、1,827万円)を含んでおります。新入生寄付金は、中高の新入生保護者には熊本地震発生前に寄付をお願いしていたので、多くのご協力を頂くことができましたが、大学の新入生保護者には地震発生後となったため、寄付はお願いしませんでした。寄付者の皆様には、心から感謝申し上げます。

#### ② 収益事業の状況

収益事業は、行っていません。

#### ③ 関連当事者との取引

関連当事者との取引はありませんでした。

## IV 付録 学校法人会計について

2015（平成27）年度から、学校法人会計基準が大幅に改正されました。

改正の趣旨は、情報の公開と説明責任の観点から、より一般に解りやすく、また学校法人の適切な経営判断に資するために行われたものです。

本学院の会計も、2015（平成27）年度からこの「新学校法人会計基準」に基づき、以下の計算書類を作成しております。これらについて、本学院の仕訳方法を踏まえてご説明致します。

### 資金収支計算書 とは・・・

毎会計年度、当該会計年度の、学院の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容、並びに、当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

資金収支計算書は、単純に4月から翌年3月までの資金の収支をまとめるものではありません。学校の活動は学年ごとに繰り返されるので、資金の収支も年度ごとに把握できるように、調整勘定を設けて調整します。

今回の改正でも、この計算書類は残りましたが、科目の名称あるいは集計先が変更となった科目があります。

主な科目の内容は、以下の通りです。

- |               |  |
|---------------|--|
| 【学生生徒納付金収入】   | 授業料収入、入学金収入、施設費収入等の納付金   |
| 【手数料収入】       | 入学検定料収入、中高の進路模試の試験料、大学の各種検定試験料、在学・卒業等の証明手数料等   |
| 【寄付金収入】       | 90周年記念事業寄付金を始めとする、寄付者が用途を指定した特別寄付金と、指定のない一般寄付金。  |
| 【補助金収入】       | 経常費、施設整備等のすべての補助金。こども園の施設型給付費も含まれます。   |
| 【資産運用収入】      | 受取利息収入と、学内施設や阿蘇山荘利用等の施設設備利用料収入。  |
| 【付随事業・収益事業収入】 | 中高の寮活動並びにこども園のスクールバス利用等を計上する補助活動収入や、大学で行う公開講座、更新講習等の収入、韓国提携大学の学生を受け入れる受託事業収入、ジャニスのカウンセリング料収入等。学院では、すべて教育に付随する「付随事業」としてしています。 |
| 【受取利息・配当金収入】  | 特定資産の運用収入や預金利息、配当金等。後述の区分経理の為、独立した科目。  |
| 【雑収入】         | 退職金団体交付金収入や、大学のボランティア体験の体験学習収入、大学科研費の間接経費収入等。この度の震災による受取保険も含まれます。  |



【前受金収入】	前年度の3月までに受け入れた収入で、当年度になって入学金や施設充実費に振替えられる、資金収支計算書特有の科目です。
【その他の収入】	預り金受入収入や仮払金回収収入など、短期的に精算される収入で、雑収入と違い、消費収支計算書に影響しません。
【資金収入調整勘定】	収入として計上したが未収となっている期末未収入金や、前受金として前年度までに受け入れた収入を、当年度に本来の科目に計上した前期末前受金等を調整する科目で、マイナス表示します。
【教育研究経費支出及び管理経費支出】	経費支出は、教育活動及び研究に用いるものを「教育研究経費」、それ以外を「管理経費」に分けています。
【施設関係支出】	土地支出、建物支出、構築物支出、建設仮勘定支出、施設利用権。
【設備関係支出】	教育研究用機器備品や管理用機器備品、図書、車両等。
【資産運用支出】	特定資産への繰入支出や有価証券購入支出等。
【その他の支出】	資産に計上する支出で、前払金支払支出や仮払金支払支出、また、負債の支払いとして前期末未払金支払支出や預り金支払支出等。
【資金支出調整勘定】	支出として計上したが未払いとなる期末未払金や、前年度までに支払っている経費を当年度に本来の科目に計上した前期末前払金等を調整する為の科目で、マイナス表示されます。

**活動区分資金収支計算書** とは・・・（新たに付表として追加）

「資金収支計算書」を『教育活動』『施設設備等活動』『その他の活動』の3つに区分して組み替え、現預金の流れを表した計算書類です。企業会計で言うキャッシュフロー計算書に相当し、これにより、活動ごとの資金の流れが分かるようになります。学校法人全体を対象に作成し、部門ごとの明細は作りません。この計算書は、文科省管轄法人にだけ作成が義務付けられています。

**事業活動収支計算書** とは・・・（従来の「消費収支計算書」）

当該会計年度の学院の諸活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。企業会計の損益計算書に相当しますが、学校法人は営利を目的とせず、教育事業を行うことが目的なので、「事業活動収支計算書」と呼びます。この計算書は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」及び「特別収支」に区分されています。

- 教育活動収支は、学校法人の本来の活動にかかる経常的な収支です。
- 教育活動外収支は、資金調達や資金運用など、財務活動の収支です。
- 特別収支は、施設設備のための寄付金や補助金など臨時的な収支です。

また、基本金組入前の収支状況（「基本金組入前当年度収支差額」）を表示することによって、短期・長期の両方の収支バランスが見た目で分かるようになりました。

科目の多くは「資金収支計算書」と同じですが、「事業活動収支計算書」だけにみられる主な科目は以下の通りです。

- 【現物寄付】 資金の受入れがないので、事業活動収支上にしか反映されません。
- 【退職給与引当金繰入額】 実際の退職金支払いに先立って、予め毎年度に負担額を事業活動支出として計上することが、事業活動収支の均衡を維持するうえで必要とされるものです。
- 大学の場合、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と、交付金の累計額との組入調整額を加減した金額を全額計上します。
- 大学以外の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額から、各退職金団体からの交付金相当額を控除した金額（学校負担額）を全額計上します。
- 【減価償却額】 固定資産のうち建物・構築物・機器備品などは、時の経過により価値が減少するものとして減価償却を行い、取得原価を毎年度の事業活動支出に費用配分しています。学校法人会計基準では、すべて定額償却です。
- 【資産処分差額】 不動産などを売却し、その代価が帳簿残高を下回った場合、その差額を計上。また建物・構築物などの取壊しや、使用不能になった機器備品を除却処分した場合、処分時点の帳簿残高を計上します。
- 【過年度修正収入・支出】 前年度以前に計上した収入または支出の修正額で、当年度の収入あるいは支出となるものを計上します。
- 【基本金組入額】 事業活動収入から組入れた金額で、下表のように第1号基本金から第4号基本金までがあります。このうち、第2号から第4号基本金は、理事会で組入れの議決をした金額ですが、第1号基本金は当該年度における施設・設備の取得額から除脚額を引いた金額が計上されます。学校法人会計においては、基本金組入れ後の収入（事業活動収入）と事業活動支出とが均衡することが望ましいとされています。

第1号基本金	施設（土地、建物等）・設備（機器備品、図書等）の取得額、及びその取得のために借り入れた資金の返済額を組入額として計上
第2号基本金	計画に基づき先行組み入れた金銭等の額
第3号基本金	周年記念奨学基金等として継続的に保持・運用するために組み入れた金銭等の額
第4号基本金	必要な運転資金を常時保持するため、恒常的に保持すべき資金として基本金に組み入れる額

※基本金と資本金：「基本金」とは、企業会計の資本金とは異なり、学校法人会計独自の計算構造で、学校法人がその諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために、事業活動収入から組み入れた金額です。

**貸借対照表** とは・・・

会計年度末における学校法人の財政状態（ストック）を表したものです。教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認します。

**【固定資産】** 耐用年数が2年以上の有形固定資産（土地・施設・設備・図書等）と、保有期間が1年を超えると見込まれる有価証券、債権などの資産のこと。後者のうち特別な目的に引き当てられた資産を、特定資産と言います。

**【流動資産】** 現金預金・未収入金・前払金・仮払金等。

**【固定負債】** 長期借入金・退職給与引当金等。「退職給与引当金」は、教職員に将来退職金として支払うべき退職金を、負債として認識するもの。中高・こども園と大学とでは引当金の計算方法が違っている為、それぞれに計算して計上しています。

**【流動負債】** 短期借入金・未払金・前受金・預り金・仮受金等。

**【純資産】** 基本金と繰越収支差額。保有する資産のうち、この部分が自己資本となるので、純資産と言います。

